

北海道港湾空港建設協会

会報

平成24年 1 月

北のみなと

No.75



— 目 次 —

新春のご挨拶（北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎英樹）	1
-----------------------------	---

Report

港関係団体と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催	2
日本港湾空港建設協会連合会と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催	6

受賞

北海道開発局 平成23年度優良工事等の表彰	10
北海道開発局 東日本大震災復旧支援で局長表彰・感謝状授与	
北海道水産林務部 平成23年度水産土木・森林土木工事等優秀業者表彰	14
平成23年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰	15

各種記事

我が社の安全衛生管理 （みらい建設工業㈱北海道支店 安全環境品証担当者 工藤 正）	16
工事現場紹介「新千歳空港美沢川函渠耐震対策外一連工事」 （勇建設㈱ 工藤 隆治）	18
私の趣味「ゴルフ、読書…」（東亜建設工業㈱ 佐見 誠）	20

Topics

稚内開発建設部で職員と開発局退職者の意見交換会を開催	22
イベント	
「釧路Oh!!さかなまつり」	23
もんべつグルメまつり カニ、サケなどずらり！ 観光客も続々と	24
「みなとオアシスわっかない」WAKKANAIみなとコンサート	25
大型客船等寄港	
豪華船旅へ小樽港出発	26
「しらせ」石狩湾新港に勇姿	27
大型客船「にっぽん丸」沓形港に寄港ー飛んでクルーズ最後の寄港ー	28

Information

事務局だより	29
業界だより	29
広報委員会だより	29



第4ふ頭に穀物サイロ、配合飼料工場が建設され、港の整備が大きく進んでいます。

新春のご挨拶



北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹

平成24年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様には、平素より北海道港湾空港建設協会の円滑な運営につきまして多大なご理解ご協力を賜っておりますことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災の被災地が一日も早く復興することを衷心より祈念いたします。会員の皆様には、昨年、被災地に対する義援金の協力をお願いいたしましたところ、熱誠あふれるご協力をいただき心より厚くお礼申し上げます。

昨年の我が国を襲った東日本大震災をはじめ、相次ぐ集中豪雨、台風などの自然災害を振り返って、建設業が地域の維持、安全に大きな貢献をしていることが改めて認識されたものと思います。

我が国が将来にわたり繁栄していくためには、国土を災害に強いものとしたうえで、激しさを増す産業の国際競争に打ち勝つことが必要であり、そのための諸施策を的確に実施していくことが不可欠であると考えます。

社会資本を整備し、維持し、災害に速やかに対応する体制を確立するために、地域に貢献する建設業の育成が必要であります。長期にわたる公共事業の縮減、入札制度の改革による利益率の減少などにより、建設業の経営は、あらゆる努力を重ねておりますが大変厳しい状況に

あり、特に海洋土木工事についてその技能、技術を継承していくことが極めて困難であり危機的状況にあると言っても過言ではありません。

海に囲まれた北海道にとって、移出入、輸出入のほぼ全量を支える海上輸送が生命線であり、海上輸送貨物の拠点となる港湾は北海道の根源的な社会資本となっております。農業の産出額、水産業の漁獲量・漁獲高は全国トップクラスの地位にあり、食料自給率が200%を超える北海道の高い食料供給力を効率よく発揮でき、災害時にも機能を十分に発揮できる港湾の着実な整備が、北海道を活力があり魅力のある地域とするために極めて重要であります。

会員各企業は、大変厳しい経営状況の中でも港湾空港関係工事を施工し、地域の経済、雇用の確保を支え、災害対応の重要な担い手になるなど港湾空港建設業としての社会的重要性を認識し、期待される大きな役割を果たしていかなければなりません。

会員の皆様のご理解をいただきながら、ご期待に応えることができるように諸課題に取り組んでまいり所存であります。会員の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様方にとりまして希望に満ちた、発展の年になりますことを心より祈念いたします。

港関係団体と当協会が 北海道開発局と 意見交換会を開催

R/H'13/H0'

b/H0'

平成23年12月15日（木）セントラル札幌北ビルにおいて港関係団体と当協会の共催で、国土交通省北海道開発局と平成23年度港湾・空港・漁港事業に係わる意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



意見交換会・北海道開発局側



港関係団体側

出席者

◎北海道開発局

栗田 悟 港湾空港部長
桑島隆一 港湾建設課長
福松也寸志 港湾行政課長
中嶋雄一 空港課長
堀越伸幸 水産課長
松良精三 港湾計画課企画官
岸 哲也 港湾建設課港湾保安保全推進官
根本任宏 港湾建設課長補佐

◎港関係団体

○北海道港湾空港建設協会
宮崎英樹 会長
宮本義憲 技術委員会副委員長
○(社)北海道建設業協会
坂 敏弘 港湾・漁港部会部会長
百瀬 治 港湾・漁港部会副部会長
○(社)日本埋立浚渫協会
佐見 誠 北海道支部長
石脇雅生 北海道支部技術委員長

○(社)日本海上起重技術協会

宮崎英樹 北海道支部長
小山良明 北海道支部技術積算委員長

○全国浚渫業協会

藤田幸洋 北海道支部長

○全日本漁港建設協会

吉本正則 北海道副支部長
櫻庭 榮 北海道支部技術委員

○(社)日本潜水協会

堀松宏朗 札幌副支部長

○港関係団体連絡会

水島正夫 会長

北海道港湾空港建設協会 要望事項

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術

を開発・向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

我が国は今、全力で東日本大震災からの復旧・復興に取り組んでいるところでありますが、我が国が将来にわたり反映していくためには、国土を災害に強いものとし、激しさを増す産業の国際間競争に打ち勝つことが必要であり、そのための諸施策を的確に実施していくことが不可欠であると考えます。

海に囲まれた北海道にとって、移出入、輸出入のほぼ全量を支える海上輸送が生命線であり、海上輸送貨物の拠点となる港湾は北海道の根源的な社会資本となっております。北海道経済を支え災害時にも、機能を十分に発揮できる港湾の着実な整備は、北海道が活力あり魅力ある地域とするために極めて重要であります。

会員各企業は、公共事業予算の長期にわたる縮減のため大変厳しい経営状況が続いており、港湾空港関係工事の施工能力の維持に対する強い危機感を持って、一層の合理化と施工技術の向上を図りながら、あらゆる努力を重ね企業経営の維持に努めております。このような経営状況の中で、港湾空港関係工事を施工し、地域の経済、雇用の確保を支え、災害対応の重要な担い手になるなど、港湾空港建設業としての社会的重要性を認識し期待される大きな役割を果たしていく所存であります。

これまでにご当局のご理解とご支援の下、懸案事項を取りまとめましたので、格別のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 項 目

1 平成24年度港湾空港関係予算の確保について

北海道の国際競争力の強化を推進する多目的ターミナル、内貿ターミナル、北海道の食料品の供給強化、水産流通拠点、地域産業を支援する機能の強化に向けた港湾の整備促進を図ることが必要と考えております。

また、離島における生活の安定、安全の確保のための離島港湾の機能強化や、北海道の主力産業であります観

光産業の振興を支援する港湾の整備、災害、環境保全等に対応する港湾施設の機能向上が必要と考えており、併せて、基幹空港であります新千歳空港の国際拠点空港化の推進、一般空港等の機能の向上に向けた整備促進を図ることが必要と考えております。

私ども会員各企業の経営は、公共事業の縮減及び受注工事の利益幅の低下傾向から、作業船の維持をはじめとする海洋土木工事の施工能力を維持することに苦慮しております。

これらの事情をご賢察のうえ、平成24年度の港湾空港関係予算の大幅な増加を強くお願い申し上げます。

また、北海道の冬期間における工事量の維持に必要不可欠である平成23年度港湾空港関係補正予算（ゼロ国債予算を含む）の措置をお願いします。

【回答】

（北海道港湾整備事業）

北海道の港湾は、全国への食糧供給等、我が国にとって重要な社会資本であることはもちろんのこと、各地域の産業や生活を支える拠点となっている。

また、東日本大震災では、港湾は復旧を支える交通基盤として、また、復興を支える社会基盤としての認識が再確認されたところである。

一方で、平成24年度予算の概算要求における北海道の港湾整備予算は、144.4億円と、各港湾が必要とする事業の国費の6割程度に留まり、非常に厳しいものとなっている。

このように北海道の港湾整備事業を取り巻く状況は大変厳しいものであるが、平成23年5月、釧路港の国際バルク戦略港湾に選定されたことを受け、平成24年度予算要求においては、釧路港の国際物流ターミナル事業を総事業費258億円で調査費を新規要求しているところである。また、平成23年度より新規着工している、苫小牧港及び函館港の複合一貫輸送ターミナル整備事業（耐震）の推進に必要な事業費を要求している。

さらに、北海道では、地方港湾を中心として、水産の供給基地、離島の生活と安全・安心を確保するために不

可欠な機能を有しており、これらの整備に関する予算の要求も行っているところである。

ゼロ国債については、積雪地域の施工期間を確保する観点で、北海道では特に重要と考えているが、ゼロ国債の予算の状況は、現段階では未定である。

(北海道空港整備事業)

航空局では、平成23年度から3年間を我が国航空企業と航空行政の「集中改革期間」と位置づけており、航空機燃料税の軽減を実施するほか、空港整備に関しては、成長戦略に基づく首都圏空港の機能強化に関する事業を着実に実施することとしている。一方、その他の空港については、安全運航の確保に不可欠な事業等を最優先としつつ出来る限りの経費の縮減を図ることとしている。

このように一般空港の整備予算を巡る状況は厳しいが、広大な面積に都市が分散する北海道においては、産業・経済を支える上で利便性の高い高速交通ネットワークの形成が必要であり、新千歳空港をはじめとする道内空港は重要な役割を果たしているものと認識している。このため、空港の機能を健全な状態に保持すべく、施設の改良・更新を進めるほか、安全・安心確保のため耐震性向上を進めることとしている。

2 適切な発注時期について

港湾、漁港における海上工事は、気象、海象の影響を大きく受け、また、時節で変化する漁業活動に影響を及ぼすことのないように配慮する必要がある、さらには、総合評価落札方式による落札決定の手続きに日数を要する場合があります、工程の管理が非常に困難となることがあります。

適切な工程管理の下で工事適期における施工を確保するため、早期発注など地域特性に配慮した工事の発注手続きをお願いいたします。

【回答】

工事適期の円滑な施工を重視して、適切な工期や発注

時期となるよう努めてまいりたい。

3 一般競争入札における調査基準価格の引き上げについて

一般競争入札における落札金額が、調査基準価格に近い金額となる傾向にありますが、現行の算定式では一般管理費の30%が対象とされています。

近年、企業の利益幅が縮小し経営が厳しく、設備投資、技術開発研究、地域貢献、新規雇用などに対しての積極的な取り組みに躊躇する状況にありますので、調査基準価格について適正利潤を確保するため、一般管理費の対象を70%以上に引き上げることをお願いいたします。

【回答】

調査基準価格の設定は、国土交通省全体の動きであり、開発局独自の対応は困難であるが、未だ低価格入札が発生している状況を踏まえ、引き続き入札動向を注視していきたい。ご要望の調査基準価格の「一般管理費70%」への引き上げについては、本省に伝えてまいりたい。

4 総合評価落札方式の改定に伴う配置予定技術者について

総合評価落札方式の評価項目の平成23年度途中の改定により、過去4年間に監理（または主任）技術者として従事した工事成績を評価対象とすることになりました。

評価対象者が監理（主任）技術者に限定された場合、監理（主任）技術者と同等の資格を有し、同等の資格を有し、同種工事の経験があれば現場代理人及び担当技術者でも配置が認められている制度の適用が困難となり、工事の従事経験による適切な技術の継承を阻害する恐れがありますので、制度の緩和をお願いします。

【回答】

平成23年9月に改定した総合評価落札方式は、評価項目や配点に関して全国のガイドラインに準じて見直したもので、配置予定技術者の能力（評価点）も評価対象に加えたものである。参加要件や評価対象の緩和は、過度

な競争をもたらす原因ともなることから、慎重に検討することが必要である。しかし、本要望は、全局的な問題であることから、担当部署に伝えるとともに、どのような方法があるか検討してまいりたい。

5 施工を考慮した構造設計の対応について

現場での収益性の向上を目指した「港湾工事の構造要因に伴う施工上の諸問題について」平成21年度及び22年度で会員に対してアンケート調査を行い、施工現場での自然条件の不一致、施工上の不都合、施工性の低下に関わる事例を取りまとめ報告いたしました。こうした問題は、工事の工程管理、費用及び安全管理に悪影響を及ぼす場合がありますので、今後にも必要に応じて意見交換をさせていただきますようお願いいたします。

【回答】

「施工から見た構造に関わる問題」につきましては、問題点・課題などを把握、順次改善するよう努力してまいりたく、今後ともご検討願いたい。

以下、他協会の要望事項

(社)北海道建設業協会 港湾・漁港部会

1. 平成24年度公共事業予算の確保
2. ゼロ国債を含む追加補正予算の措置
3. 防災・減災に必要不可欠な基盤施設の整備
4. 早期発注について
5. 地元企業への受注機会の確保

全日本漁港建設協会

1. 平成23年度補正予算（ゼロ国債）について
2. 協会員への受注機会の確保について
3. 工事の早期発注及びゆとりある工期設定について
4. 地震津波防災減災対策の推進について
5. 施工効率向上プロジェクトの推進について

(社)日本埋立浚渫業協会

1. 港湾関係公共事業について
2. 公募要件の緩和について
3. 担当技術者の工事成績適用の拡大について
4. 特殊単価や特殊施工費の公表

(社)日本海上起重技術協会

1. 平成24年度港湾関係予算の確保について
2. 平成23年度補正予算（ゼロ国債を含む）について
3. 北海道における港湾事業の中長期的な展望について
4. 地元業者への工事量の確保について
5. 作業船を保持するための施策について
6. 登録海上起重基幹技能者の評価について
7. 低入札価格調査基準価格の再引き上げについて

全国浚渫業協会

1. グラブ浚渫工事量の確保・増大について
2. 工事の発注時期について
3. 総合評価落札方式の改定について

(社)日本潜水協会

1. 港湾潜水工事量の確保について
2. 元請・下請関係の適正化について
3. 「港湾潜水技士」の資格認定者の活用について
4. 「潜水工事」建設業法に定める専門工事として追加規定することについて

日本港湾空港建設協会連合会と 当協会が北海道開発局と 意見交換会を開催

RH13/H0'

b/H0'

平成23年12月16日（金）ホテルポールスター札幌において日本港湾空港建設協会連合会（日港連）と当協会の共催で、国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



意見交換会・北海道開発局側



日港連・当協会側

出席者

◎北海道開発局

栗田 悟 港湾空港部長
 笹島隆彦 港湾計画課長
 桑島隆一 港湾建設課長
 福松也寸志 港湾行政課長
 中嶋雄一 空港課長
 堀越伸幸 水産課長
 松良精三 港湾計画課企画官
 岸 哲也 港湾建設課港湾保安保全推進官
 根本任宏 港湾建設課長補佐

◎日本港湾空港建設協会連合会

川嶋康宏 会長
 村上義範 専務理事
 木地本堅司 技術ワーキング委員長
 坂本正俊 契約・設計積算部会長
 水口倫太郎 契約・設計積算部会委員

◎北海道港湾空港建設協会

宮崎英樹 会長
 吉本正則 副会長
 藤田幸洋 副会長（技術委員長）
 佐見 誠 副会長（広報委員長）
 西村幸浩 副会長（企画委員長）
 宮本義憲 技術委員会副委員長
 水島正夫 技術委員（部会長）
 石脇雅生 技術委員（副部会長）
 中村弘之 技術委員
 杉本義昭 技術委員
 手塚定雄 技術委員
 竹中 正 技術委員
 柴田政雄 技術委員

要 望 事 項

日頃より、私ども日港連の業務遂行及び活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

私ども「日港連」は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位向上」を目的に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全都道府県協会を結集して、1984年（昭和59年）に設立され28年を数えます。

しかしながら、国家財政再建を建前に平成10年代半ばから続行された公共事業費の抑制策に加え、一昨年突如として全世界を巻き込んだリーマンショックによる経済危機の後遺症が響き、日港連会員企業の経営は極めて厳しい状況におかれています。

しかも、このところの急激な円高が我が国経済復調の足下をすくい、製造業の海外移転等に拍車がかかり、民間の設備投資も見込めない状況となりました。

会員企業からは、現状のままでは海上工事を担うための生命線ともいえる作業船の保有や維持管理、施工技術の伝承等の核心部分に対しても大鉈を振るわなければならないと悲鳴が上がっています。

私ども「日港連」は、国民が豊かで安心できる社会生活基盤を構築し、これを次世代に引き継ぐことが現在に生きる我々に課せられた最も重要な責務であると認識し、品質の高い港湾・海岸・空港関係社会資本づくりに日々努めてまいりました。

また、建設業が雇用の機会を提供し経済を支える、とりわけ格差の著しい地方域において、地方再生・地方活性化・地方の自立などの課題、並びに災害対策・防災対策を通じて地域の安全の確保にも大きく貢献してきたと自負し、今後ともそのような存在であり続けたいと考えております。

このような現状を踏まえ、私どもが抱えております当

面の懸案事項等につき、下記のとおり要望申し上げますので、格別のご高配を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

要 望 項 目

1 港湾関係社会資本の着実な整備推進

極端な少子高齢化社会を迎えた中で国家財政再建が喫緊の課題となっておりますが、一方で、我が国経済の活性化も重要な課題となっております。

また、東日本大震災を教訓として、忍び寄る大地震・津波等災害への備えも急がなければなりません。戦後復旧に貢献した港湾インフラの老朽化も顕著となっており、これらへの対応も放置しておくことは出来ません。

我が国の経済復興、国土の安全・安心の確保のためにも、このような港湾関係社会資本の整備が求められている時にあると考えます。

については、厳しい国家財政下ではありますが、これらへの関係施策を講じ、必要な予算を確保し、早急に事業展開されますようお願い申し上げます。

【回答】

（港湾整備事業）

国の財政逼迫から、公共事業が長期にわたり削減されている状況であり、「選択と集中」の政策のもと、北海道の港湾整備に関しては非常に厳しい状況にある。

一方で、戦後から高度経済成長期に整備され、我が国の経済発展に貢献してきた港湾整備の老朽化が顕在化し、施設の老朽化対策が緊急的に必要となっている。また、東日本大震災では、港湾は、復旧を支える交通基盤として、また、復興を支える社会基盤としての認識が再確認されたところである。

北海道開発局としては、貴連合会のご要望も踏まえ、

我が国の経済の再生、そして、国民の安全・安心な暮らしの確保に資する港湾整備の着実な推進のため、毎年、毎年確実に必要な予算確保に努め、適切に事業を推進してまいる。

(空港整備事業)

港関係団体の意見交換会と同じ (P 4 参照)

2 作業船の保有や技術者の確保など港湾施工体制及び技術力の維持・伝承

前文でも触れましたように、日港連会員企業の経営は大変厳しい状況におかれております。港湾工事に欠かせない作業船を如何にして保有・維持管理していくのか、同様に技術職員の高齢化が進む一方で若年技術者の採用にも苦慮している状況から、このままでは一気に港湾工事から撤退を余儀なくされる会員企業が続出する懸念さえあります。

このことは、我が国の港湾工事を遂行する施工体制の著しい衰退及び技術力の低下を招くことにも繋がりますので、何卒このような事態に至ることがないように、いち早い対策のご検討をお願い申し上げる次第です。

【回答】

港湾工事を実施する上で、作業船や海上作業を行うための技術者が重要な役割を果たしていることは、十分認識している。また、北海道においても地震の発生が危惧されており、震災発生時の対応を考えると、作業船の保有・維持並びに海上作業技術者の確保は重要な課題と考えており、引き続き事業の確保に努めてまいりたい。

また、税制支援も重要な課題と認識しており、港湾局では特例措置の延長を要望していると聞いている。

作業船の保有・維持管理に関する諸課題等については、十分意見を伺わせていただき、対応方策を考えていきたい。

3 港湾・海岸・空港関係事業の適正かつ効率的な実施

公共事業の抑制により発注工事が長期に亘って減少したことから、入札ダンピングが横行し公共工事の品質の確保が問題となったことは記憶に新しいところです。

このことに関する国の対策は毎年講じられてきましたが、その後においても過剰・過激な競争入札が治まる気配は見られません。この結果、受注企業が健全経営のため必要とする利益を確保することは至難な状況が続いております。

総合評価落札方式は、導入してから5年を経てやっと地方公共団体にも浸透してまいりましたが、一方では制度の行き詰まりも顕著となってまいりました。

この際、従来の枠組みを超えた新しい入札・契約制度の構築が必要になっていると考えられますので、是非ともこのような課題への取り組みをお願いします。併せて、直面する状況を打開するため、毎年改訂いただいております調査基準価格の再度の引き上げを、対象とする一般管理費率の見直しにより実現いただきますよう重ねてお願い致します。

また、工事の実施に関しては、これまでに種々の見直しで改善を図っていただいております。しかしながら、諸手続の簡素化や関係書類の削減等により効率的な事業執行の観点から、一層の改善を図っていただくようお願い致します。

なお、港湾管理者等地方公共団体が行う港湾関係事業は、関係者の中には特異な分野となり必ずしも精通している方々ばかりとはいえないように感じております。国からの適切な助言やご指導により、全体の水準向上が図られることを希望致します。

【回答】

調査基準価格の設定は、国土交通省全体の動きであり、

開発局独自の対応は困難であるが、未だ低価格入札が発生している状況を踏まえ、引き続き入札動向を注視していきたい。ご要望の調査基準価格における「一般管理費」の引き上げについては、本省に伝えていきたい。

総合評価落札方式については、国土交通省全体による「国土交通省直轄事業における公共工事の品質確保の促進に関する懇談会」において検討が進められていることは承知している。

諸手続の簡素化、関係書類の簡素化についても重要な課題と認識している。例えば、「施工プロセスを通じた検査」の試行工事において、品質検査員により施工状況等を確認していることから、既済部分検査において受注者が用意する書類を簡素化している。また、「設計図書の照査のガイドライン」などをHP上で公表し、円滑な請負契約の執行に努めている。今後も工事の効率的な事業執行を図るため、貴連合会の意見をいただきながら、検討してまいりたい。

港湾管理者等地方公共団体には、意見交換会等の場を通じ、国における取り組み等の情報提供を行っているとともに、当局の研修に港湾管理者の担当職員も参加出来るような体制としているところであるが、お困りになっている具体的な事例があればお教え願いたい。

北海道開発局 平成23年度優良工事等の 表彰

—北海道開発局は
優れた成果を挙げた企業と技術者の栄誉を称え、
局長及び部長表彰の授与式を行った—

北海道開発局は平成23年7月20日札幌第1合同庁舎で平成23年度（第31回）優良工事等の授与式を行った。平成22年度に完成した工事の中から優良工事24件を施工した26社と技術者26人に、高松泰北海道開発局長から表彰状が贈られた。

今回、工事部門の当協会員が受賞した局長表彰は、港湾・空港・漁港工事で①㈱菅原組が施工した「森港建設工事」②近藤工業㈱が施工した「余別漁港－2.0m物揚場改良その他工事」③菱中建設㈱が施工した「苫小牧港東港区岸壁－12m控工外建設工事」④㈱宮原組が施工した「厚岸漁港門静地区物揚場その他工事」の4件4社が受賞した。

各開発建設部長表彰は、港湾・空港・漁港工事で①㈱森川組が施工した「青苗漁港島防波堤その他工事」②道南総合・吉本・西村（湧）経常JVが施工した「白老港東防波堤改良工事」③濱谷・機械開発北旺経常JVが施工した「釧路港新西防波堤建設工事」④村井・山田・白崎経常JVが施工した「釧路港－9m岸壁改良その他工事」⑤㈱西村組が施工した「ウトロ漁港人工地盤基礎地中梁建設工事」⑥三協建設㈱が施工した「留萌港南防波堤改良その3工事」⑦中田・みらい経常JVが施工した「鴛泊港（鬼脇港区）船揚場改良工事」の7件12社が受賞した。

—港湾・空港・漁港における受賞工事— 〈北海道開発局長表彰〉

○工事名：森港建設工事

発注者：函館開発建設部

施工業者：㈱菅原組



技術者：泉 等



森港建設工事

〔工事目的〕

森港は、水産拠点として重要な役割を担っているが、施設の不足による非効率な水産活動を強いられています。本事業では、本港地区小型船だまり整備にかかる物揚場、浚渫、港湾施設用地、道路の建設を進め、小型船の混雑解消等による効率化を図るものであり、水産業にかかる作業コストの削減を目的としています。

〔表彰理由〕

当工事は、漁業活動と輻輳するほか、埋立土砂は道路事業からの受入れであるなど多くの関係者との調整が必要でしたが、近接工事調整会議などによる綿密な調整、埋立地周辺のホタテ養殖従事者及び土砂運搬路沿い住宅への個別訪問による丁寧な地元説明の結果、苦情もなく円滑に工事を完成させました。成果品については、仕様書を上回る社内・現場規格値を設定、特に浚渫においては、DGPS船体誘導システムの導入により浚渫エリアとその水深を的確に管理し、掘り残しのない効率的な施工で工期の短縮を図りながら規定値の50%以内の精度の高い良好な出来形を確保しました。

また、環境対策として町内会、飲食店から廃食用油を回収、自社でバイオディーゼル燃料に精製し、現場の車両、重機に使用するなどCO₂削減の取り組みにおいて、他の模範となる成果を収めました。

○工事名：余別漁港－2.0m物揚場改良その他工事

発注者：小樽開発建設部

施工業者：近藤工業㈱



技術者：藤原 真一



余別漁港－2.0m物揚場改良その他工事

〔工事目的〕

余別漁港（余別地区）においては、冬期の風雪により陸揚げ作業が非効率となっていることから、既存施設の老朽化した－2.5m及び－2.0m物揚場に衛生管理を意識した防風雪施設を備えた物揚場に改良することにより、冬期における就労環境の向上と効率的な陸揚げ環境を確保し、安全安心な水産物供給を図ることを目的としています。

また、港内における泊地の水深が確保されていないことから、－2.5m及び－3.0m泊地の整備（浚渫）を行い、漁船の安全な航行と停泊を確保するものです。

〔表彰理由〕

当該工事は、既存物揚場を撤去し、新たに防風雪施設（上屋）を備えた物揚場に改良するものです。施工箇所は、既存物揚場の背後に漁業活動の中心ともいえる荷捌き施設が隣接した狭隘な現場条件であり、荷捌き施設の供用を図りながらの工事となるため、荷捌き施設の変位防止・管理として仮設矢板を施工し変位チェックを実施するとともに、水揚げされた魚介類への影響に配慮して防塵発生にも注意をはらうなど慎重に進めました。また、狭隘箇所のアスファルト舗装及びコンクリート舗装を的確に実施するため舗装材料の敷均し・転圧には小型建設機械を使用することで適切に完成させました。

○工事名：苫小牧港東港区岸壁－12m控工外建設工事

発注者：室蘭開発建設部

施工業者：菱中建設(株)



技術者：片川 典洋



苫小牧港東港区岸壁－12m控工外建設工事

〔工事目的〕

苫小牧港では、近年の外貿コンテナ取扱量の著しい増大、滞船の発生、コンテナヤード不足に対応するため、東港区において国際コンテナターミナルの整備を進めており、中央水路地区の－10m岸壁については－12m岸壁へ増深改良するとともに、大規模地震災害時の防災拠点としての役割を果たすため、耐震強化岸壁として整備を進めています。本工事は、当該岸壁の耐震強化の一環として控工等を建設するものです。

〔表彰理由〕

- ①冬季を含む厳しい条件下において3種類の陸上地盤改良工（事前混合処理工法、深層混合処理工法、高圧噴射攪拌処理工法）を施工するため、高度な品質管理が求められる工事でしたが、改良プラントのキャリブレーション頻度を増すとともに、スラリー比重を1日4回測定するなど安定した配合管理の工夫を行い、高品質の改良体を造成させました。
- ②当工事に隣接している－14m岸壁及び－12m岸壁は供用中のため、船舶の接岸状況を確認しながらの施工であるとともに、別件工事とも輻輳する厳しい施工条件でしたが、関係機関との連絡を密にするとともに、第三者に対する事故防止対策を行うことによって、無事故で工事を完成させました。

○工事名：厚岸漁港門静地区物揚場その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工業者：(株)宮原組



技術者：北村 貴史



厚岸漁港門静地区物揚場その他工事

〔工事目的〕

厚岸漁港門静地区には、漁港施設がなく各漁家が前浜から出漁・陸揚等を行っているため、漁船の上下架には多大な労力を必要とするとともに多少の波浪でも出漁できない状況にあります。このため、門静地区に新たに漁港施

設を整備し、コンブ漁業の効率化・労力軽減を図るとともに、創出される静穏域を活用し、カキやウニ養殖等の新たな取組みを推進するものです。

〔表彰理由〕

本工事の施工箇所は、直接外海に面し、水深が極めて浅く透明度も悪く、加えて多くの漁船が航行しているなど厳しい条件下にあり、適切な施工管理・品質確保が大きな課題でした。こうした中、海象条件の的確な把握・予測による作業船の安全運航を行うとともに、コンクリート打設の品質を確保するため、作業船上にミキサー車とポンプ車を搭載して打設を行う独自の施工方法により、適切な品質確保や施工管理が図られました。また、コンクリート打設時には独自に汚濁防止膜を設置して海洋汚濁防止に十分な配慮を行い、加えて、作業船基地から施工箇所への往来は漁場区域を外し、輻輳する漁船等との接触を避けるなど、周辺環境の保全や、海上交通安全の確保に配慮しました。

〈各開発建設部長表彰〉

○工事名：青苗漁港島防波堤その他工事

発注者：函館開発建設部 施工業者：㈱森川組

○工事名：白老港東防波堤改良工事

発注者：室蘭開発建設部 施工業者：道南総合・吉本・西村（湧）経常JV

○工事名：釧路港新西防波堤建設工事

発注者：釧路開発建設部 施工業者：濱谷・機械開発北旺経常JV

○工事名：釧路港－9 m岸壁改良その他工事

発注者：釧路開発建設部 施工業者：村井・山田・白崎経常JV

○工事名：ウトロ漁港人工地盤基礎地中梁建設工事

発注者：網走開発建設部 施工業者：㈱西村組

○工事名：留萌港南防波堤改良その3工事

発注者：留萌開発建設部 施工業者：三協建設㈱

○工事名：鴛泊港（鬼脇港区）船揚場改良工事

発注者：稚内開発建設部 施工業者：中田・みらい経常JV

北海道開発局 東日本大震災復旧支援で 局長表彰・感謝状授与

北海道開発局は、9月13日～14日に関建において、東日本大震災の災害復旧支援に対応し、大きく貢献した2団体16社に局長表彰、また同じく東日本大震災に際して、被災地における復旧作業に必要となる資機材等

の提供等を行った3団体29社に、感謝状の授与式を執り行った。

今回、当協会員が受賞した局長表彰対象者、局長感謝状授与対象者は以下のとおり。

〈局長表彰〉

開建名	会員名	作業内容
室 蘭	北興工業(株)	・広域防災フロートの出動 ・支援物資の調達手配・積み込み

〈局長感謝状〉

開建名	会員名	作業内容
札 幌	勇 建 設 (株)	・資材等調達・運搬
〃	岩倉建設(株)	・資材等調達・大型油回収船及び広域防災フロートへの積み込み
小 樽	(株) 吉 本 組	・資材等調達・広域防災フロートへの積み込み
室 蘭	酒井建設(株)	・資材等調達

北海道水産林務部 平成23年度 水産土木・森林土木 工事等優秀業者表彰

北海道水産林務部は、平成23年12月15日KKRホテル札幌で23年度工事等優秀業者感謝状の贈呈式を挙行了。同部所管の22年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に尽力した工事部

門22社、委託部門2社に知事感謝状が手渡された。

表彰された優秀業者のうち、水産部門で当協会員の①～⑦の7社が受賞した。

①北興工業(株) (室蘭市)	⑤葵建設(株) (釧路市)
②(株)中田組 (稚内市)	⑥釧石工業(株) (釧路市)
③石塚建設興業(株) (稚内市)	⑦真壁建設(株) (根室市)
④(株)西村組 (湧別町)	

平成23年度 漁港漁場関係事業 優良請負者表彰

農林水産大臣表彰に藤建設(株)、(株)南組

水産庁の平成23年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰で、道内から藤建設(株)（本社：稚内、藤田幸洋社長）、(株)南組（本社：様似、南修社長）が農林水産大臣表彰に輝いた。

両社の高い技術力と業績をたたえる表彰式は、平成23年10月28日水産庁長官室で行われた。

農林水産大臣表彰

藤建設(株)

受賞にあたり、藤田社長は「名誉ある賞をいただき誠に光栄に思います。この受賞を励みに今後も一層の技術研鑽に努め、地域社会に貢献し漁港漁場整備事業の発展に寄与していきたい」と話している。



ふじ た ゆき ひろ
藤田 幸洋 氏
藤建設(株) 代表取締役

会社概要

本社所在地	稚内市
設立	昭和27年2月14日
資本金	1億円
社員数	76名

(株)南組

受賞にあたり、南社長は「名誉ある賞をいただき誠に光栄です。関係各位のご協力、ご指導のおかげと感謝しております。今後も一層の技術研鑽に励み、地域社会の発展に寄与していきたい」と話している。



みなみ おさむ
南 修 氏
(株)南組 代表取締役社長

会社概要

本社所在地	様似町
創業	昭和3年4月
資本金	9,200万円
社員数	80名

我が社の安全衛生管理

みらい建設工業株式会社北海道支店 安全環境品証担当者 工藤 正 氏

1. はじめに

当社は、建築工事業を手掛けていた「日東建設㈱」と港湾工事を中心に土木工事業を主に手掛けていた「大都工業㈱」、「三井不動産建設㈱」の3社が合併した会社であります。

現在は、北海道支店、東北支店、東京本店、中部支店、大阪本店、中国支店、九州支店の7本支店と民間の開発事業を専門に行うMF事業本部で、海洋土木を中心に農業土木、橋梁、道路、河川、トンネルなどの総合建設業者として事業展開を図っております。

平成14年に社名を現在のみらい建設工業株式会社と改め、『我が社にかかわる多くのステークホルダーに「より高い満足感」を感じてもらえるようなグッドカンパニーを目標とする』企業理念のもとに社業の発展を通じて社会に貢献することを目指しております。

2. 安全衛生管理基本方針

当社は、安全を最優先に安全、安心な現場環境を作り「災害ゼロ」を目指すため、本社中央安全衛生委員会で、年度毎に安全衛生スローガンを含めた「安全衛生管理基本方針」を策定し、全社一丸となり安全衛生活動を行っております。

✦ 平成23年度 安全衛生管理基本方針

【安全衛生管理基本方針】

潜在する危険性・有害性の調査と安全衛生管理計画に基づく活動の実施および快適な職場環境の整備を図り、労働災害の根絶を目指す。

【安全衛生管理目標】

『危険性・有害性の排除 災害ゼロを目指す』

『整理・整頓・清掃の実施 快適な職場環境を図る』

【スローガン】

「小さな改善 大きな成果 安全は 一つ一つの積み重ね」

3. 安全衛生管理計画

(1) 全社安全衛生管理計画

「全社安全衛生管理計画」は、【安全衛生管理基本方針】【安全衛生管理目標】を達成させるための具体策を【重点施策】として、年度毎に策定しております。

(2) 支店安全衛生管理計画

「支店安全衛生管理計画」は、「全社安全衛生管理計画」を基に、地域性などを考慮しより具体的に策定しております。

(3) 作業所安全衛生管理計画

「作業所安全衛生管理計画」は、工事着手前に工事担当者と支店工事部、安全環境品証担当で施工検討会を開催し、現場毎の危険作業、危険箇所を事前に絞り込みさらに具体的な計画を策定しております。

4. 安全衛生管理活動

(1) 安全衛生推進大会

毎年6月には、みらい建設工業㈱北海道支店と安全衛生協力が合同で「安全衛生推進大会」を開催し前年度の安全表彰、年度基本方針の確認などを行い、社員と協力会社が一丸となり、安全意識高揚を図っております。

(2) 安全衛生協力会活動

「安全衛生協力会」は、当社と協力業者が相互協力のもと現場の安全

を確保するために、年2回程度の安全パトロールを実施し、災害防止に対する指導、援助を行っております。



平成23年度安全衛生協力会パトロール

(3) 店社安全パトロール

毎月1回以上、支店長または安全環境品証担当者による安全衛生環境パトロールを実施しております。各現場に出向き、現場の担当者と視点を変えた点検を安全面だけでなく、衛生面、環境面についても社内チェックリストを利用し確認・指導しております。パトロールは、是正事項だけでなく、良い事例や工夫も評価するとともに、今後予想される災害、事故を未然に防ぐアドバイスを行っております。また、各現場の点検結果は、社内ネットで水平展開を行っております。



店社安全パトロール実施状況

5. 工事安全衛生管理活動

工事現場においても新規入場時教育、作業手順周知会、安全大会、安全衛生協議会、安全訓練などの安全行事や朝礼、KY活動、設備機械の点検などの日常活動を通して、安全安心な現場環境づくりと災害ゼロを目指しております。

以下に当支店で行っている安全活動の工夫の事例を紹介させていただきます。

(1) 工事関係車両の駐車方法

当支店内の全現場の工事関係車両については、原則的にバック駐車にしております。緊急避難時や災害、事故発生時など車両の発進時は慌て



工事車両駐車状況

ている場合が多いため、後進時の事故を防ぐために行っております。また現場条件により、車輪止めの使用を広めております。

(2) 避難はしご付救命浮輪の設置

海上工事現場において通常設置されている救命浮輪場所に、避難はしごを設置しております。万が一海中転落

事故が発生した場合、救命浮輪により救助しても、海面から岸壁上への救助が難しいため、避難はしごを使用できるようにしております。



救命浮輪設置状況

(3) 重機のカギ管理方法

バックホウやクレーンのオペレーターがカギを付けたまま離席することを防ぐために、伸縮式のキーホルダーを、ベルトに取り付けることに



カギの管理方法

より、カギを抜かないと離席できないようにしております。

(4) 安全訓練の工夫

現場における月1回の安全教育訓練をより充実させ、安全意識の高揚を図るため、現地での訓練を必ず実施しております。訓練内容がマンネリ化しやすいため、各現場で実施状況を水平展開し内容を工夫しております。

今年度は、国土交通省の「技術マッチング」に登録されている、チェックシートに記入すると心理学的アプローチから自己判定するシステム「現場力シリーズ」を全現場の従事者に行ってもらい、各自の「気付き」によりヒューマンエラー防止に役立てております。

6. むすびに

昨年は、想定外の事象が東日本を襲いました。「想定外」、「未曾有」の事象が現実にかかることを私たちは目の当たりにし、大きな代償によって多くのことを学びました。

建設現場においても「想定外」の事象が発生した場合、多くは災害や事故が伴うものと思われます。それらを未然に防ぐために、日々の作業に潜在する危険性、有害性を調査し、抽出した課題の対応策を検討して、安全安心な職場環境に整備していくことが重要であると思われます。

なかなか先の見えない時代ですが、今後も建設業を通じて社会に貢献できるように、「魅力のある建設業」づくりに向け、邁進していきたいと思っております。

「新千歳空港美沢川函渠耐震対策外一連工事」

勇建設株式会社

新千歳空港作業所 所長 工藤 隆治

まえがき・新千歳空港の概要

昭和63年7月20日に開港した新千歳空港は、平成4年7月1日からはターミナル諸施設が新空港に全面展開し国内航空路線の基幹空港として、さらに北海道における国際航空の拠点として重要な役割を担っています。また、近年、台湾、香港、韓国を中心とする東アジア圏の北海道観光の人気上昇とともに、国際線利用者数が大幅に増加、国際線ターミナル混雑緩和のために空港西側に新国際線ターミナルが平成22年にオープンしました。

新千歳空港では安全・安心な国土づくりとして、大規模地震発生時の緊急・救命活動、さらには緊急物資・人員等の受け入れ可能とするため空港機能を確保する耐震強化対策などの整備事業が展開されています。

工事の目的と概要

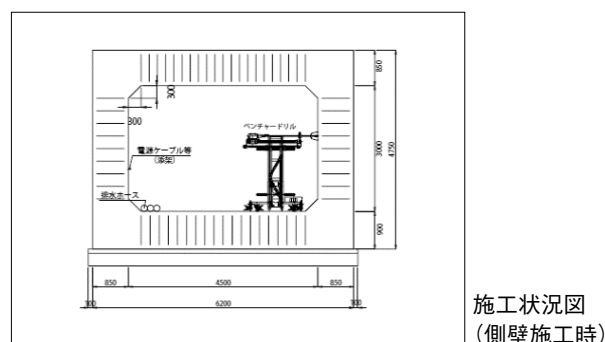
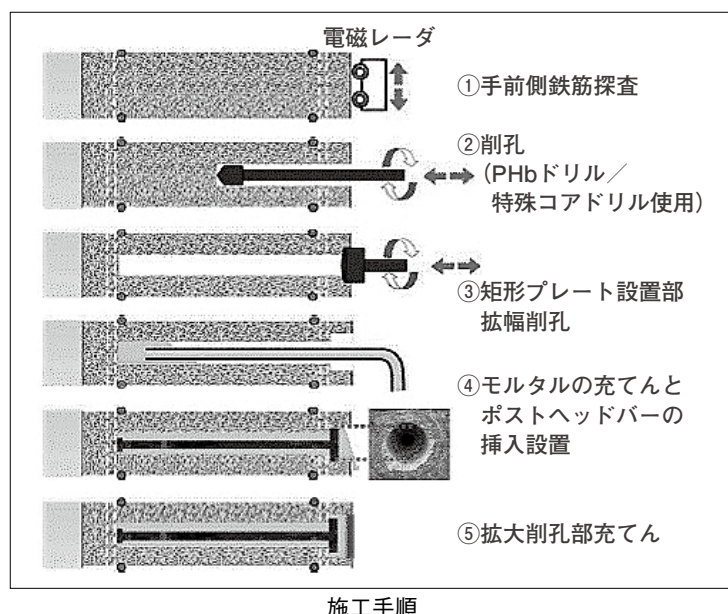
本工事は災害に強い空港としての機能を保持するため

に、地下幹線排水路である美沢川函渠の耐震対策を行うものです。

美沢川函渠は、昭和50～52年に施工された排水路であるため、現在の耐震設計法に相当する地震力を受けた場合にせん断耐力が不足していることが調査により判明しています。このため、供用中である美沢川函渠の内側から補強工事が可能なPost-Head-bar工法（以下、PHb工法）による耐震補強を行う工事となっています。

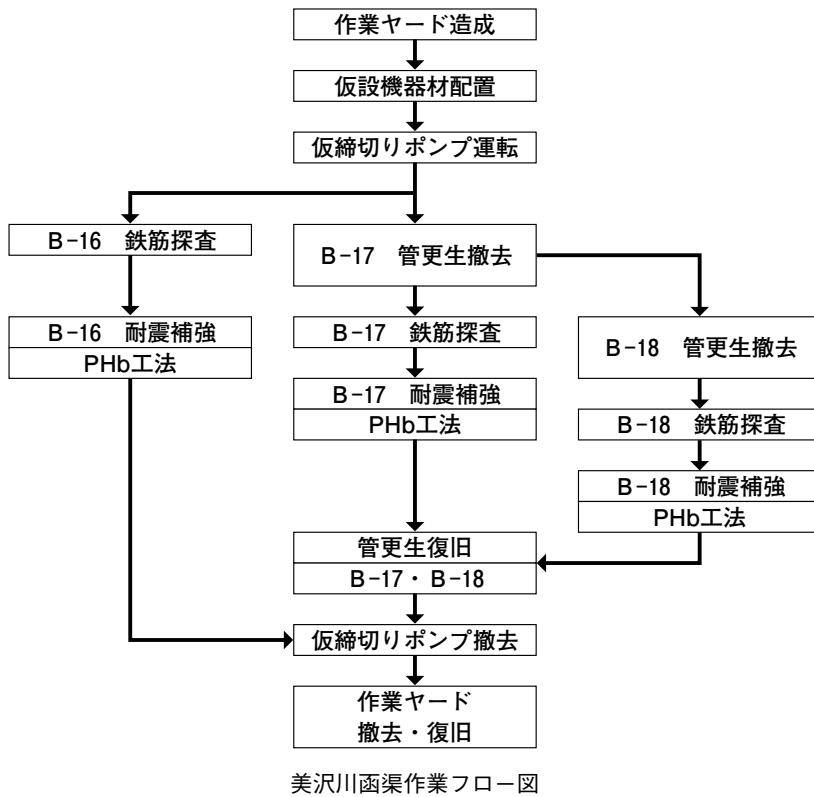
PHb工法とは、既存構造物の内空側表面からPHbドリル／特殊コアドリルにて削孔を行いその孔内に供用中のコンクリート構造物にせん断補強を行うための「後施工プレート定着型せん断補強鉄筋」（Post-Head-bar）を挿入し、モルタルを充填することにより、構造躯体と一体化をはかり、部材のせん断耐力を向上させ、じん性を確保する工法です。

また、施工カ所の内、二つのブロックには管更生が施工されており、これを撤去してPHb施工後にパルテム・



耐震補強に関する工事内容は以下のとおりです。

- ・耐震補強工（PHb工法）：施工延長：30m＊3ブロック＝90m
内訳：頂版3,747本、側壁3,210本、底版3,390本
- ・函渠補強工：既設管更生撤去60m、管更生復旧60m
- ・鉄筋探索工：鉄筋探索1式
- ・処分費：殻運搬処理1式
- ・仮設工（締切排水）：土のう工1式、ポンプ運転1式



函渠内部状況



削孔機械・PHbドリル

フローリング工法により復旧する作業も行います。

なお、施工場所は現在供用中の排水路であるため、水路呑口部に土のうを設置して水中ポンプによる水替えを行いながらの施工となります。

工事の作業状況

施工は上のフロー図により実施しています。

8月末より、函内の清掃、通路・照明設置と仮設工の土のう設置、水中ポンプ据付・運転を行いました。引き続き、B-17、B-18の既設管更生撤去を行い、一部並行してB-16の鉄筋探査・PHbの施工を開始しました。

その後10月末よりB-17、B-18のPHb施工に着手しています。11月末現在では全てのブロックにおいてPHbの施工を行っています。

管更生復旧は、PHb工法の完了後の施工となります。

作業の留意点

本工事は新千歳空港の制限区域内を通行しなければならないため、発注者・空港管理者との事前協議を行い、

空港管理者の定める規則を遵守して通行・施工するために作業員全員にルールの周知を図っています。また、作業場所は既設函渠内であるため換気・照明設備の設置を行い、さらに降雨情報を収集しながらの施工となっています。

PHb工法では頂版・側壁（左右）・底版の4方向の施工となり、上下作業とならないようにブロックごとに施工方向を設定し、所定の間隔において削孔作業・定着作業を行うように配置しています。

あとがき

新千歳空港は、北海道の玄関口として役割を担っている我が国有数の空港であり、今回の工事を施工することで空港の災害時の機能向上の一端を担うことができれば喜ばしいことです。そのためにも、ご協力いただいている発注者・空港関係者の方々に感謝し、全行程を無事故・無災害で竣工できるよう職員・作業員共に安全管理に細心の注意を払って施工したいと思います。

私の趣味

『ゴルフ、読書…』



東亜建設工業(株)
佐見 誠

これまで、この欄では趣味について書かれてきたと聞いています。

自分の趣味というと、ゴルフ、読書…くらいでしょうか。

ゴルフについては、コースに出るときだけでなく、練習場で打つのも好きなのですが、なかなか上達しません。でも、いい気分転換であり、ストレス発散になっていると思います。

これから、長く続けられる、そんな趣味をもう一つくらい見つけたいと思っています。

ゴルフについては、特に書けることもありませんので、ここでは私が好きで読み続けている刑事小説、警察小説について、ご紹介したいと思います。

私が刑事小説、警察小説を読み出すきっかけとなった最初の1冊は、大沢在昌著の「新宿鮫」でした。それから、横山秀夫、堂場瞬一、今野敏、東野圭吾、



黒崎視音、佐々木譲等の作品を読み続けています。一人の作家を読みだすと、同じ作家の作品を読み続ける傾向があり、大体の作品を読みました。

現在填まっており、一押しとして紹介するのが、佐々木譲著の道警シリーズです。「笑う警官」、「警察庁から来た男」、「警官の紋章」、「巡査の休日」の4作品があります。一気に4冊を読破することをお勧めします。後で書かれた小説では、先に書かれた小説の事件が関連してくるからです。

3作目までは、現実の稲葉事件（銃器対策室のエースと呼ばれ、桁違いの拳銃摘発数を誇っていた人物が、覚せい剤取締法違反で逮捕）をモデルにした、拳銃摘発ヤラセ問題に端を発した覚せい剤取引及び裏金問題が鍵になっています。

上記作品の特徴として、2日間とか5日間といったようにタイムリミットが設定されたサスペンスとなっており、スリリングで緊迫感のある展開となっています。

札幌を舞台に、警察官たちの不眠不休の捜査が生き生きと描かれています。こうした現場で必死に捜査を続ける警察官たちへのエールが感じられる作品です。「警官の紋章」では北海道洞爺湖サミットを取り上げ「巡査の休日」では、YOSAKOIソーラン祭りを舞台にしており、まさに地域に根ざした小説と言えます。

また、「笑う警官」の解説の冒頭に、以下のような記述があります。

「官庁や企業などの不祥事が、これほど毎日のように報道される時代があっただろうか。会見を終えると一列に並んだ責任者たちが立ち上がり、深々と陳謝の一礼をする。それと同時にカメラのストロボをたく音と光が明滅する。下手な芝居の幕切れを飾る舞台効果のようだ。ひょっとして謝罪会見のマニュアルを作成する業者がいるのではないかと勘ぐりた



くなるほど、パターン化されている。

不祥事の内容はさまざまだが、そこに共通するのは、露見しなければ都合の悪いことは隠し通して組織の安寧をはかろうとする隠蔽体質だろう。私企業であればユーザー、官庁であれば住民の不利益を避けようという視点が、端から欠落していると言わざるを得ない。個人から組織まで、いつのまにかモラルハザードが蔓延した社会になってしまったようだ。」

昨今、コンプライアンスが叫ばれる中、そうした視点でこれらの小説を読み進めるのも一興かと思います。

なお、佐々木譲の作品としては、2010年に直木賞を受賞した「廃墟に乞う」、「このミステリーがすごい！ 2011年版」で一位になった「警官の血」などもあります。

肩も凝らずに読める、気晴らし、気分転換にお勧めの小説としてご紹介させていただきました。

稚内開発建設部で 職員と開発局退職者の 意見交換会を開催

R_H13/H₀'b/H₀'

9月27日（火）15時から稚内開発建設部の会議室において、稚内開発建設部職員と北海道開発局を退職されたOBとの意見交換会が開催されました。

意見交換会には、開発建設部から岡崎次長をはじめ築港課、稚内港湾事務所に勤務する港湾技術者17名と開発局退職者16名が参加しました。

この意見交換会は、「港湾技術者の技術力向上」をテーマに、サブテーマとして「片務性解消と良好なパートナーシップの構築について」を設定して意見交換が行われました。

意見交換会は3班に分かれて以下のテーマについて討議しました。

A班：工事・業務発注まで（入札段階） 入札手続き、総合評価方式の手続きなど。

B班：工事・業務施工中（実施段階） 監督体制、設計変更手続き、ワンディレスポンスなど。

C班：工事・業務完了後（完了段階） 検定書類の審査、竣工検査時の連絡・調整など。

班討議の後、各班から議論経過の発表があり、その後全体討議を行いました。出された意見や要望は、今後の業務の参考として活用されることになります。



全体風景



班発表



班討議

イベント

「釧路Oh!!さかなまつり」

第16回「釧路Oh!!さかなまつり」が9月11日、釧路副港市場マリントポスト特設会場で開かれた。

今年は台風の影響で1週間延期されたが、会場には大勢の人が詰め掛け、サンマやイカなど旬の味覚を買い求めた。

まつりの目玉、副港で水揚げされたばかりのサンマ即売会には、早朝6時すぎから多くの人の列ができ、午前9時すぎまでに完売した。また、同じく水揚げされたばかりのイカもわずかな時間で完売。各漁協や地元水産加工会社が新鮮な魚介類を格安で販売した市場内でも、そ

れぞれ用意した海鮮セットなどが飛ぶように売れた。

岸壁では、買ったばかりのイカやホタテ、カキなど炭火で焼く海鮮炉端やステージショー、秋サケのつかみ取りが行われ、港まち釧路らしいさまざまなイベントを市民や観光客が楽しんだ。

また、「Oh!!さかなまつり」の一環として釧路開発建設部では釧路港「エコポートパネル展と港見学会」を同会場で開催した。

(記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました)



ステージで和太鼓の演奏を披露する子供達
(釧路開発建設部提供)



島防波堤の背後盛土周辺で採取した水生生物のミニ水族館
(釧路開発建設部提供)

もんべつグルメまつり カニ、サケなどずらり! 観光客も続々と

第18回もんべつグルメまつりが10月8日から10日までの3日間、旧紋別駅跡地の「オホーツク氷紋の駅」駐車場の特設会場で開催された。

開催初日の8日は最高の秋晴れに恵まれ、会場には約20の事業所がずらりとテントを構え、カニやサケ、ホタテなどの特産品や加工品、酪農製品、野菜などを特価販売。多くのテントに黒山の人だかりが出来ていた。旬の

味をその場で炭火焼きして味わえるオホーツクバーベキューコーナー也大賑わいとなった。

同まつり実行委員会では、旭川や札幌、北見など遠方での宣伝活動にも力を入れており、多くの観光客が訪れた。

(記事は北海民友新聞から抜粋して掲載しました)



ホッケやカニ・エビ・牛肉など
炭火焼きを楽しめる
オホーツクバーベキューコーナー



カニやサケ、ホタテなどの特産品等の特価販売した出店

「みなとオアシスわっかない」 WAKKANAIみなとコンサート

稚内港北防波堤ドームで8月28日WAKKANAIみなとコンサートが開かれ、夕方の終了まで市民3000人余りが訪れ、各団体の歌や踊りの発表を楽しんだ。

稚内の活性化と地元の音楽愛好家らの発表の場をと、稚内のみなとを考える女性ネットワークが主催し9回目。今年は東日本大震災被災地に向け「北からエールを

届けよう」をテーマに開催した。最北烈風隊の発表を皮切りに宗谷アルメリアコール、水夢館キッズダンスなど19団体が発表。このなかで女性ネットワーク会員と高橋稚内開発建設部長らが烈風隊と一緒に踊りを披露しイベントを盛り上げていた。

(記事は稚内プレスから抜粋して掲載しました)



参加団体の演奏発表



小学生によるコーラス



よさこいソーランの演舞

大型客船等寄港

豪華船旅へ小樽港出発

大型豪華客船「にっぽん丸」（2万2千472トン）が道内各地を周遊する「飛んでクルーズ北海道」の第1便が22日、小樽港を出港した。今年も例年と同じ4便を運航する。

飛んでクルーズ北海道は、飛行機で道内入りする観光客らを対象に商船三井客船とJTBが2006年から企画し、利尻や網走などを回る。第2便以降は8月25、28、9月1日に小樽を出港する。

にっぽん丸は横浜港からの190人を乗せて22日午前9時に第3ふ頭に入港。夕方から、道内外の約330人が乗

り込み、潮太鼓の勇壮な響きに合わせて午後7時に出港した。

長女から退職記念の船旅をプレゼントされた京都府精華町の谷直樹さん（60）と妻順子さん（54）は「2度目の新婚旅行みたい。海からの北海道の景色が楽しみ」と話した。

にっぽん丸は飛んでクルーズ北海道に続き、サハリンクルーズなど小樽発着の2便を運航後、9月10日に横浜港に向けて小樽港を離れる。

（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）



小樽港に係留した「にっぽん丸」

「しらせ」石狩湾新港に勇姿

南極観測船がやってきたー。石狩市は、市政施行15周年を記念し南極観測船の砕氷艦「しらせ」寄港を招致。9月2日、その巨大な船体が石狩湾新港西ふ頭に接岸した。

「しらせ」は南極地域観測隊やその物資を輸送する国内唯一の現役砕氷艦。市の要請を受け、訓練航海の一環で初の同港寄港が実現した。

「しらせ」は全長138mで、全幅28mに相当する横長の操縦室があり、2日の関係者向け先行見学会では、海上自衛隊員が世界に誇る最新鋭の航海設備を説明。

艦内にはオーロラを観測できるシステム、医療面ではレントゲンや手術台、歯科設備も搭載されていて、見学者は

技術の高さと設備の充実ぶりに感嘆の声を上げていた。

3、4日は一般公開が予定されていたが気象状況の悪化で予定を変更。しらせは急きょ、3日午後6時に次の寄港地、富山へ向かった。

今回の寄港は、こども未来館あいぼーとのオープン記念事業にも位置付けられていて、4日には同館で衛星テレビ回線をつなぎ南極昭和基地とリアルタイムで交信したり、中藤琢雄艦長からプレゼントされた南極の氷に触れるなどして参加した子供たちは目を輝かせていた。

しらせは11月に南極へ向けて出発。年末ごろ昭和基地に到着、観測協力の後、来年7月に帰国する予定だ。

(記事は北海道建設新聞から抜粋して掲載しました)



石狩湾新港に入港した「しらせ」

大型客船「にっぽん丸」沓形港に寄港 ー飛んでクルーズ最後の寄港ー

沓形港に9月2日、今シーズン最後の寄港となる「にっぽん丸」（2万2千472トン）が寄港、関係者や町民らが巨大な船体を見ようと港に集まった。

この日午前8時、大きな汽笛とともに入港しゆっくりと着岸、「飛んでクルーズ」の小樽、網走、礼文、利尻を巡るクルーズで乗客は420人。小雨の降るあいにくの天気の中、バスに乗り込み島内観光や、傘を持ち沓形市街をブラリ歩きする乗客の姿が見られた。また船内では、

歓迎セレモニーとして仙法志小学校の児童によるソーラン節の演舞を行った。にっぽん丸は同日午後5時頃、関係者に見送られ、次の目的地に向け出港した。

今シーズンの大型クルーズ船寄港は6月12日の「BREMEN」に始まり、6月3回、7月5回、8月2回、9月1回の計11回で、過去最多となった。

（記事は「日刊宗谷」から抜粋して掲載しました）



仙法志小学校児童によるソーラン節の演舞



沓形港に入港する「にっぽん丸」

◎事務局だより◎

1. 安全管理講習会

平成24年 2月21日（火）午前

ホテルポールスター札幌

2. 港湾空港工事報告会

平成24年 2月21日（火）午後

ホテルポールスター札幌

3. 総会、理事会

平成24年 4月19日（木）

ホテルポールスター札幌

4. 日港連総会

平成24年 5月9日（水）

明治記念館

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●東洋建設(株)北海道支店

支店長 白川 隆司 平成24年 1月1日

◎広報委員会だより◎

本格的な冬の訪れが始まっています。皆様方におかれましても風邪などを引き、体調を崩さないように気を付けていただきたいと思います。

昨年の大きな話題は、何ととっても3月11日に発生した東日本大震災関連ニュースですが、今なお被災地の復興には不透明なものが多くあり、地域の方々のためにも一日も早い被災地の再生が望まれます。

さて、私が今の時期大きな関心を寄せている1つに今シーズンの積雪量があります。私の住まいは風が強く積雪量が多い所なので、除雪作業に大きく影響するからです。

家の前の道路は除雪車が入りますが、除雪のみで排雪は3月中旬の1回だけなので、毎回玄関前と車庫前の排雪がどうしても必要となります。6、7年前から周りに

空き地もなくなり、猫の額ほどの裏庭にスノーダンプでスロープを作り排雪をしています。排雪路の高さがある程度になると急勾配となるため、最初の何回かは快調ですが、不摂生と年のせいかすぐに息が上がって、心臓が限界だと訴えてくるような状況です。

このようなことから、除雪作業は無精な私にとって、ハードで頻繁にあるやりたくない仕事です。

前置きが長くなりましたが、最近年と共に健康や体型を考えざるを得なく、適度な運動が必要となってきた私にとっては、この嫌いな除雪作業も良く考えて見ると、身近にある趣味と実益を兼ねた格好の運動と思って、動いて見ると思いの外工程も上がり、心地よい汗と感ずることも多々あります。

残念ながらまだまだ未熟者ですので、毎回その境地に至る迄になっていませんが、気持ちだけは今後も保ち続けていきたいと思っています。また、他の苦手な事に対しても同じ様な気持ちで取り組みたいものです。

今、私達を取り巻く状況は非常に厳しく、目線を下げることあるかと思いますが、気持ちだけは真直ぐ前を向いて進んでいける様な会報誌を目指したいと思いますので、今後ともよろしくご支援のほどお願いいたします。

（志賀）

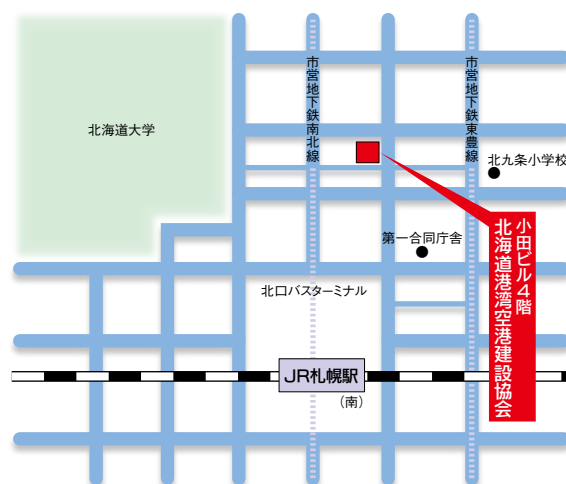
平成24年 1月現在の広報委員は、次のとおりです。

委員長	佐 見 誠	東亜建設工業(株)
委員（部会長）	小 山 良 明	堀松建設工業(株)
（副部会長）	志 賀 保	五洋建設(株)
	大 西 治 朗	(株)不動テトラ
	桜 田 信 也	東洋建設(株)
	櫻 庭 榮	(株)中田組
	荒 井 直 人	東亜建設工業(株)
	毛 利 照 男	釧石工業(株)
	渡 辺 修 司	(株)菅原組
	東 志 郎	萩原建設工業(株)



十勝港飼料コンビナート

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.75

発行年月 平成24年1月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 小山 良明
 印刷 須田製版